

整形外科

診療部長： 佐藤 徹
医 長： 竹内 一裕

指導医は常勤6名・専修医1名・専攻医3名の計10名で、うち日本整形外科学会専門医が6名で構成されている。整形外科は、脊椎、四肢の運動器疾患のさまざまな疾患に関わっている。脊椎疾患に関しては、岡山県内のみならず県外からも紹介を受け、手術施行後は紹介医と連携を取り加療にあたっている。又、救急外来において骨折をはじめとする外傷の加療を多数行っている。人工関節手術や靭帯再建術の慢性～亜急性期疾患の紹介も多く、手術を中心とした医療を行っている。年間約2000例の手術を施行しており、内訳は脊椎疾患約700例、外傷約800例、人工関節約300例となっている。病棟においては、常時75床の入院患者を担当し、外来患者は、1日70～100人程度である。

「概要と特徴」

整形外科における基礎的疾患について診察、治療方法や救急外来での骨折、捻挫などの外傷に対する初期治療法を学ぶ。緊急性のある疾患を認識し、早期に専門医に相談すべきかどうかの判断力と知識を養う。手術室あるいは救急外来など臨床現場で体を動かしての研修が多いのが特徴である。

「初期研修の基本的方針」

指導医とともに、入院、外来診療に携わり、又手術にも参加していく。特に手術において“自らが手を出す”ことでチーム医療に積極的に参加していくことを学んでいただきたい。またカンファレンスは毎日8時から約1時間行われ、多数の症例を経験することが可能である。

「研修予定表」

行 事	曜 日	時 間
カンファレンス	月～金	8:00～9:00
外傷リハビリカンファレンス	月	16:30～

「指導体制」

脊椎グループと外傷・人工関節グループの2チームに分かれて研修を行う。
それぞれのチームで常勤医師とのマンツーマンでの臨床研修を行うことが特徴である。

「経験可能な症例や手技」

疾患名と経験例数	経験する手技と習得すべき知識	経験手技例数
椎間板ヘルニア 20 例	脊髄造影・神経根ブロック:レベル診断	20 例
圧迫骨折 10 例	コルセット処方:適応と手続き	1 例
変形性関節症 20 例	リハビリテーションの処方	20 例
大腿骨頸部骨折 20 例	周術期管理と合併症	20 例
足関節捻挫 10 例	シーネ固定:外傷の初期対応	10 例
肘内障 10 例	整復法	10 例
コレス骨折 20 例	ギプス固定:合併症	20 例

上記は最低限の数です

「後期研修について」

後期研修については積極的に募集している。基本的には岡山大学医局と連携して後期研修を計画するようにしている。当院では、外傷・人工関節グループに属しながら、整形外科が経験すべき症例を、外来・手術・リハビリテーション計画を通じて総合的に研修するようしている。また、さまざまな研修会や学会参加を国内外問わず積極的に行っていただくよう考えている。

「研修責任者よりひとこと」

膨大な量の手術数をこなしており、また診療内容も最先端医療を目指しております。必然仕事量は多く高度な内容を求められますが、他では得ることができない圧倒的な経験をすることが可能です。またその中で、整形外科チームとして佐藤診療部長・竹内医長を中心にアットホームな雰囲気でごんばっております。

初期研修医には、その中で今の自分は何をすることができるのか、どうすればチーム医療に参加することが可能なのかを考えていただき、積極的に“手”を出していただきたいと思います。

「研修希望時の連絡先」

塩田 直史

国立病院機構岡山医療センター 整形外科